

支援活動の目的と戦略

子どもに優しい復興を!

「あらゆる自然災害で、もっとも困難な状況におかれてしまうのは子どもたち」。ユニセフが2007年4月にまとめた緊急時対応マニュアルは、こう指摘しています。子どもたちは、災害発生時だけでなく、その後も特別なケアを必要とします。

日本ユニセフ協会は、世界中の子どもの生存と健康な発達を支援するユニセフファミリーの一員として、ユニセフ本部お

よびユニセフ東京事務所、並びに協力団体・企業などの協力を得て、東日本大震災で被災した子どもの支援に関わる分野を中心に緊急・復興支援活動をサポートしています。

特に、専門的な知識を必要とする心理社会的支援や、教育、保健をはじめとする重要なサービスを提供するための支援を続けています。

復興支援における6つの取り組み



6カ月の活動ハイライトと今後の活動予定

6カ月の活動ハイライト

震災発生から1ヵ月 緊急救援物資の提供と 母子への保健衛生、 栄養支援

- 水、子ども用衣料、衛生用品、靴などの救援物資の調達・配布
- 母乳育児を含めた母子保健事業の支援(継続中)
- 「子どもに優しい空間」の設置やプレイセラピー講習などを通じた心のケア支援を開始
- 国際的スタンダードに基づく震災孤児に対する代替擁護(ケア)を訴えるアドボカシー



震災発生から2ヵ月 学校・保育園・幼稚園の 再開と心のケア 支援の拡大

- 「バック・トゥ・スクール(学校に戻ろう)」キャンペーン フェーズIの実施
 - ①2万人以上の子どもにランドセルや文房具などの学用品を提供
 - ②100校以上の小中学校に机、椅子、コンピュータなどの職員室備品、仮設トイレ、スクールバスなどを提供
- 学校・保育園・幼稚園での給食やおやつなどの栄養補給支援(継続中)
- 保育園や幼稚園、学童保育施設に知育玩具や机、椅子、食器などを提供
- 「心のケア」支援の拡大
 - ①「ちっちゃな図書館」プロジェクト:全国から寄贈された絵本を図書館セットにして、保育園・幼稚園、個人宅などに送付(継続中)
 - ②ユニセフこどもバス遠足:子どもたちに思いっきり外遊びやさまざまな体験を楽しむ機会を提供するバス遠足を開始(継続中)
 - ③プレイセラピー講習・臨床心理士による支援の拡大展開(継続中)



震災発生から 3ヵ月～6ヵ月 中長期的な 復興支援ヘシフト

- 「バック・トゥ・スクール(学校に戻ろう)」キャンペーン フェーズIIの実施
- 小中学生に、体操着、習字道具、絵の具などの学用品の購入支援(継続中)
- 中学・高校体育総体開催支援
- 学校健康検診用資材の提供(継続中)
- 乳幼児健診、予防接種など母子保健事業の本格的再開への支援(継続中)
- 地域住民の参加による保育園、幼稚園、障害児施設、学童保育施設の建設支援(継続中)
- 仮設住宅などへの「子育て支援センター」機能の併設支援・アドボカシー(継続中)
- 虐待防止キャンペーン(継続中)



今後の活動予定

震災発生から半年が経過した今、被災地では復興に向けた活動が始まっていますが、自らも被災者である各地方自治体は、まだ本来の機能を取り戻すまでには至っていません。

日本ユニセフ協会は、この6ヵ月間、①子どもたちの教育支援、②お母さんと赤ちゃんの保健・栄養支援、③子どもの保護支援の3つの分野において行政サービス機能の回復のための支援を行うとともに、被災地の子どもたちの状況が、被災以前よりも、より良い状態になること(Build Back Better)を目指して活動を続けてきました。

今後は、被災した子どもたちへの包括的な社会保護の拡充や、子どもたちへの虐待防止、さらに特定の市町村における復興計画に子どもの意見を反映させることなど、長期的な支援も視野に入れた活動を展開していきます。

